

IV

放物線 $y = 2x^2 + 18$ 上を移動する点 $A(p, q)$ がある。ただし、 $0 \leq p \leq 6$ とする。4 点 $A(p, q)$, $B(p, 0)$, $C(6, 0)$, $D(6, q)$ を頂点とする長方形の面積を S とする。 S は p の関数とみなすことができる。

1. $\frac{dS}{dp} = -$ $p^2 +$ $p -$

2. S は $p =$ のとき極大値を取り、 $p =$ のとき極小値をとる。

3. 直線 $x = p$, 直線 $x = 6$, 直線 $y = q$, 放物線 $y = 2x^2 + 18$ で囲まれた図形の面積が 72 のとき、 $p =$ である。

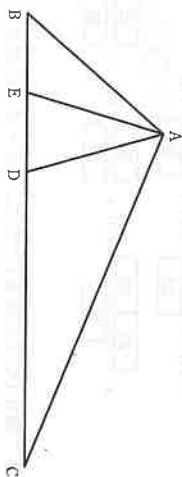
V

図のような $\triangle ABC$ がある。 $\angle BAC = 120^\circ$, 辺 BC 上の点 D は $\angle BAD = \angle CAD$ をみたし、 $AB = 3$, $AD = 2$, $AC = a$, 線分 BD 上の点 E は、 $\angle BAE = \angle DAE$ をみたす。

1. $BD^2 =$, $ED =$ BD

2. $DC^2 = a^2 -$ $a + 4$

3. $a =$



国語

(六〇分)

次の文章を読み、後の問に答えなさい。

心身問題は近世哲学の初頭においてデカルトによって提起された問題であるといわれている。そしてそれは彼の二元論が孕む必然的な疑問でもあったのである。

デカルトが提起した二元論とは、一言にして言えば実体としてこの世界に存在するものは精神と物質の二者であるという説である。ここで「実体」とは「他に依存することなく、それ自身によって存在する、不変の存在」である。したがって、定義により、精神と物質は互いに独立であるとされる。

この二元論が何故にあらためて一つの哲学的立場としてこの時期に提案されたかという点については大きな時代的背景がある。デカルトの時代、学問全体の配置図が大きく変わりつつあった。すなわち、十字軍の遠征に端を発して東方文化がヨーロッパに移入され、さらに、ルネサンス期の胎動を通じてヨーロッパの学問は一つの新しい黎明期を迎えていた。その中で、ギリシャ以来の学問体系はあるいは疑われ、あるいは大きく改変を迫られることになったのである。天動説が疑われ、ガリレオが活躍し、ハーヴェーにより血液は循環するものであることが発見され、また、アラビア代数とギリシャ的幾何学との葛藤が解析幾何学という、まったく新しい融合的な数学を生む（それ自身デカルトの業績である）というような事態が相ついだ。ここで、それではいかなる学問が正統な学問として成り立ち得るだろうかというところが切実な問題として現れたのである。このときに、この問題に答えるためデカルトは有名な「方法的懐疑」という態度をとった。すなわち、彼は確実な知識が何であるかということを析出するために、

疑い得るものはすべて疑ってみようとした。そして、そこに、何かそれ以上は疑うことのできないものが残ったとき、それを基盤として、そこから確実な知識の体系を新たに作り上げて行くことを試みたのである。

一見したところ、われわれの周囲には確実であるものが数多く存在しているように思われる。たとえば科学者が提出するいわゆる科学的知識は非常に確実なものだとわれわれは考える傾向がある。しかしデカルトは真つ先にそこを疑う。なぜわれわれは科学的知識が確実であると信ずるのだろうか。それはあきらかに、科学が実証的であるという点にある。すなわち科学は空想によって描かれた理論ではなく、確実な証拠によって確立されている理論であるというところがある。これはまことに常識的にもっともな考え方であるが、しかし、デカルトはそこに大きな懐疑のメスを入れるのである。はたしてその故に科学は確実な知識であるといえるだろうか。

一般に科学者が証拠を求める方法として使うものは、実験的方法である。デカルトの時代から実験的方法というものが科学の中で確立されていくわけであるが、その実験的方法を使って実験観察に根差した知識であるが故に科学的知識は確実だというようにわれわれは考えている。おそらく現場の科学者もそう考えているだろう。しかし、実験観察というものは結局のところわれわれがこの目で見える、あるいは耳で聞くということを意味する。すると直ちに起る疑問は、われわれの感覚ははたして信頼すべきものだろうかということである。要するに実験観察というのは最終的には感覚に依存する。考えてみると、われわれの感覚こそ最もあやしいものの一つである。したがって、そのような感覚に基づくものが科学であるとするならば、科学的知識こそ最も不確実なものとならざるを得ないことになる。かくして、デカルトは科学を含めてすべてを疑い、そして、その結果、唯一確実なものとして「私が考える」「私が意識している」というところに至り、そして、有名な「我思う、故に我あり」(コギト・エルゴ・スム)という命題に到達することになったのである。そこでデカルトはそれ以前の一般的な考え方、つまり確実なものとか絶対な真理というものがわれわれの外側にあるという考え方を逆転させ、確実性の根拠をわれわれ

自身の内側にもたらしことになったのである。すなわち、いままでは外の世界あるいは神の世界に求められていた確実性の根拠というものをデカルトは人間の意識の中に移し変えたのである。

そこでコギトというものが絶対確実性の根拠をなすということを言うために彼は意識、心というものを外側の物の世界からはぎとってこなければならなかった。つまり意識や心は物の世界に依存していないある独立なものだと考えざるを得ない。かくして彼は物・心二元論を立てるに至ったのである。つまり心と物二つのものは元来独立なもので、相互的に依存の関係はあり得ず、したがって、心や意識は物質の働きに **A** し得るものでは決してあり得ず、かくして、世界は物と心の二元の世界ということになるのである。

デカルトの二元論にはもう一つの大きな動機があったように想像される。それは、当時の学問の趨勢から見て、「物質」というものを精神的なものから独立させる必要があったということである。当時の自然観は一般にはまだかなりの程度にアニミスティックなものであった。すなわち、一木一草、さらには、路傍の石ころに至るまですべて何がしの「魂」、あるいは、それに類似の心的なものを宿しており、それらのものが運動したり、変化したりするのはすべて、この心的な魂によるという考え方である。このようなものの見方は未開社会においては普通のことであるが、西欧文明の中においても、いわば、手を変え品を変えて近世にまで残存して来ていたのである。たとえば、当時流行していた生気論などがその一例である。しかしながら自然科学が近代科学へと脱皮して行くその前夜においてこの種のアニミズムは捨て去られなければならないかった。そして、それに代って、物体はそれ自身で一つの完結した世界を構成し、それ自身の原理によつてのみ運動し、変化するという知見が確立されなければならないかったのである。換言すれば、物体は、それ以外の、たとえば、魂のような心的なものによつて動かされるのではなく、物体そのもののもつ性質、すなわち、「力」によつてのみ運動すべきものであるという知見の確立が求められたのである。この故に物質は精神から独立であるべきであり、したがって、二元論が必要であったのである。かくして、デカルトの二元論が現れ、そして、やがて、心的なものを一切除外したニュ

1 トンの力学的物理学の出現が約束されることになるのである。しかしながら、このようにして現れた二元論は人間という場においてただちに重大な難問を惹き起すことになるのである。すなわち、人間は一方において身体という物体である。しかし他方同時に人間は心、精神の持ち主でもある。しかも非常に興味あることは、人間においてはその二つがみごとに統一をとっている。体と心がバラバラに動くというようなことはない。そこにはみごとに連携がある。精神と物体が相互に独立でなければならないという二元論の上に立つてなおかつ、人間においてはその両者がたくみな連携を保っているという事実を説明しなければならぬという大きな難問を抱え込むことになる。これがとりもなおさず心身問題の起点である。

以上のような背景と歴史をもつて心身問題が現れるのであるが、その当初にデカルトは彼自身この問題に対して一つの解答を提出している。それが有名な松果腺説といわれるものである。つまり脳の中心の部分にある松果腺からある種のホルモンが分泌されているが、この松果腺が人間の心と体を結びつけているところであると彼は述べている。これはもちろん現在の生理学をひもとくまでもなく荒唐無稽な話である。もちろんデカルトの時代には大脳生理学というものはほとんどなく、その点でかなり同情の余地はある。いずれにせよ、デカルトの解決はナンセンスでありそして問題はその後に残された。しかもこの問題はその後の現在までに至る学問の歴史の中でまことに重大な問題に発展して来るのである。

(坂本百大「人間機械論の哲学」『機械と人間』)

問一 傍線部(ア)の説明として、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

4の中から一つ選びなさい。

【1】 1 デカルトが提案する心と体の独立性を証明することは、その決定的な糸口もみつからないほどの難問である。

2 デカルトの心身二元論は、正当な学問として成り立ち得るかどうかという問題を内包する。

3 デカルトの二元論には、生氣論のようなアニミズムから脱却し、精神の独立性を確立しなければならないという大きな問題があった。

4 デカルトが主張するような心と体の独立性が証明されても、両者の関係には説明すべき難しい問題が残る。

問二 傍線部(イ)が指すものとして、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

1～4の中から一つ選びなさい。

【2】 1 「精神」と「物質」の語意的定義

2 この世界に存在するものは、精神と物質の二者であるという二元論の定義

3 実体とは他に依存することなく、それ自身によって存在するという定義

4 近世哲学の分野における一般的な定義

問三 傍線部(ウ)の説明として、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

4の中から一つ選びなさい。

【3】 1 ヨーロッパと東方の文化が接触し、学問が新たな進歩を遂げた。

2 新しい哲学的提案により、新たな学問体系が誕生していた。

3 実験的な方法の採用により科学が確立されていた。

4 正統な学問としての科学が成立し始めていた。

問四 傍線部(エ)の内容として、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

4の中から一つ選びなさい。

【4】 1 デカルトの「方法的懐疑」が適用できること

2 確実な証拠によって確立されている知識であるということ

3 デカルトが科学の正統性にメスを入れたということ

4 われわれが科学的知識が確実であると信じていること

問五 空欄Aに入る語として、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

1～4の中から一つ選びなさい。

【5】 1 置換

2 還元

3 投射

4 対峙

問六 傍線部(オ)の内容として、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

【6】 1 心的な魂に基づく自然観を排し、近代科学を成立させること

2 デカルトの「方法的懐疑」の正当性を証明すること

3 精神と感覚とのバランスを確保すること

4 正統な学問の成立条件を導き出すこと

問七 傍線部(カ)の説を筆者が取り上げた理由として、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

【7】 1 物の領域にある体の優位性を説明するため

2 心身問題は生理学で説明できることを説明するため

3 アニミズムが否定される理由を説明するため

4 二元論を人間に適用するとき生じる根本的な問題を説明するため

問八 筆者の考えとして、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

【8】 1 近世哲学の初頭においてデカルトは、初めて心身問題を提起し、有名な「我思う、故に我あり」という命題に基づく「方法的懐疑」を考案し、精神と物質を研究する近代科学を導くために大きな影響を与えた。

2 デカルトは、確実な知識が何であるかということを析出するために、科学的知識も含めて疑い得るものはすべて疑い、科学的知識は感覚に依存するので不確実なものであるという主張に達するが、このアプローチの目的は確実性の根拠を求めることであつた。

3 デカルトの二元論の動機の一つは意識・心を物質の世界から独立させることであり、もう一つは当時流行していたアニミステイックな生氣論のような原始的なものの見方は誤りであり、二元論ではないことを証明することであつた。

4 数学の領域でも哲学の領域でも大きな貢献をしたデカルトは、精神と物質の二元論を提案し、「方法的懐疑」、「我思う、故に我

あり」という命題やアニミズム的思考の問題を通して、心身問題を解決へと導いたという点において近世から近代にかけての学問分野に貢献した。

二 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

娘*のルীগウインの『ゲド戦記』は、ある意味では欧米文明への批評になっている。それを子供の言葉で語ろうとした。そこがおもしろい。欧米の文明というのは、少なくとも現代文明は、死んだ者呼び戻す力を忘れた文明だ。だから、「未開人から何かを学ばなければいけない」とか、「サルから人間への道」とか、いろいろなことを考えるのだが、そういうA語で死者を呼び戻せるものか、それが問題だ。

たとえば、物に対する扱いがある。イシの場合には、弓も矢もほんとうに手にくつついたように動かせるのだが、そういう関係を我々は物に対して持っているだろうか。物調査をやると、アメリカ人に比べても、イギリス人に比べても、日本人のほうが家の中にある物が多種類にわたっている。でも、物と自分とは、たとえば、使いこなされたクラブのように、ほんとうに混合物、アマルガムになっているだろうか。イシにとっては、そうになっていた。

亡くなった高取正男が、「形見」という言葉を分析している。物を見て形を見ることができると呼ぶ戻せるという。ある物を形見にするというのは、その形を見る力を持っていないければ、母親の遺品も形見にはならない。そういう力がおとろえていけば、形見は意味がなくなつて、何の形見もない暮らしになっていく。その点では、イシの持っている世界に比べて、我々は明らかに貧しい。そのことは現代文明に対するイシの批評であり、イシを受け継いでいるルীগウインの批評なのだ。

クロローバーは、死ぬ前の講演で、ピカソを非常に高く買っている。

ピカソは違う種類のスタイルを、次から次へ試みた人の一人であり、全部自分から出たもので、模倣ではないという。日本文化はそれに当たるのではないかと、クローバーは考えた。そうかなと、私は思う。イシは、欧米の文明に対して、自己選択の態度を保って対した。日本文化はそう対したか、それは疑わしい。

柳宗悦が「日本の眼」という文章を書き、世界のさまざまな民芸品を日本の目で見て、陳列、配列を考える。これは偉大なことなのだ。科学技術に対しても同じように日本の頭は自分の必要にあわせて対することができるだろうか。それは、イシが日本に対して出している問題だ。⁽¹⁾私は、クローバーのように楽観的ではありえない。

『ゲド戦記』のゲドが魔法学校に行くと、その達人が教えてくれる。

長は、また、この術が多く危険をはらんでいることを語り、なかでも、魔法使いが自分の姿を変える時には自らの呪文から逃れられなくなる危険を覚悟しなければならないと注意した。

〔ゲド戦記〕

これは、⁽²⁾現代の自然科学技術がほとんど惰性でどんどん進歩していく、そのことを望遠鏡で見ている。

魔法学校を出て、大変な秀才で魔法使いになったゲドはふるさとに戻って、かつて魔法の手引きをしてくれた人に会うと、もとの先生は大変に喜ぶ。「やあ、来たか」。ゲドの答えは、「はい、出ていったときと同じ愚か者のままで」。⁽³⁾これはすばらしい。

これを読んで、日本の知識人の場合のどんな上がりっぱなしになつていくという進歩の階梯について考えてしまった。精神科医の中井久夫の、成熟の定義がある。「退行の泉に湯浴みして、もとのところへ帰ってこられるもの」、それが成熟なのだ。自分が愚か者であるところまで繰り返して行く。それができない者は成熟していない。大変に未熟な状態で、原爆をつくって投げたりするようなことになるわけだ。これが、ル・グウィンがイシからくみ取った知恵だ。

魔法使いの自戒は、あることを変えたら、宇宙の均衡をそれで破ることがあるということだ。宇宙の均衡をもと通りにできないようなことをすることができるのは、人間だけなのだ、ということを一生涯懸命

魔法学校で教えている。だが、現在の日本では、⁽⁴⁾そういうことを教えない。

ゲドは、ある時、何とか自分を救い出そうとしてある魔術をかけた、そのことについて先生である魔術師はこう言う。

今度のは、どう見ても均衡を正そうというのではなくて、それを狂わそうという動きだ。そんなことができる生物は、地球上には一種類しかない。

それは人間なんだと。また、こういうふうに教わる。
〔ゲド戦記〕

魔法というのは、その土地土地と密接にかかわりあっているという意味なんだ。

〔ゲド戦記〕

土法、その土地その土地の法だ。それはクローバーがイシについて、イシが最後の年月を送った現場でイシの動きをみるのとても似ている。

そのもとの場を超えて、天下どういふところでもやってはいけない。つまり、「ロードス島でとべ」というのは考えてみると、マルクスにはその予感⁽⁵⁾はなかったことは確かだ。ロードス島ではとてもうまく飛べた。だから、「ここがロードス島だ、ここととべ」と今いるところと言う。でも、そこはロードス島ではないのだからそういうふうにはいかない。

西田幾多郎の無の哲学というのは、大変おもしろいものだと思つてゐる。だが、西田は、大東亜戦争の真つただ中に、矢次一夫の呼び出しに負けて、大東亜戦争を擁護するような声明を書いた。西田哲学は、自分のつくつた魔法をどういふふうにかけるのか、その土地の状況とどういふふうに関係していくのかということを考えていなかった。魔術師としては、まだちょっと不足という感じはある。

結局、現代社会の魔術といえは、科学がある。そのほかには、名声と権力と金だ。科学、名声、権力、金、そのどれにもイシは乗せられなかった。これは、ものすごいBだ。名声を得ると、自分が偉くなったような気がして、それに乗つかつて、次々ものを書いたり演説したりする。それがおそろしい。

〔注〕*娘のルীগウイン…原住アメリカ人の小部族ヤヒ族の人・イシの娘。

(鶴見俊輔『思想をつむぐ人たち』)

問一 空欄 A・B に入る語として、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔9〕 A 1 抽象 2 表象 3 形象 4 心象

〔10〕 B 1 実力 2 知恵 3 無関心 4 自尊心

問二 傍線部 (ア) の説明として、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

〔11〕 1 死者の持っていた価値観や感性を推察する力

2 その物と生者の関わりの深淺を感じ取る力

3 その物の持つ死者にとっての重要性を推察する力

4 死者のイメージを喚起し生き生きと感じ取る力

問三 傍線部 (イ) の理由として、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

4の中から一つ選びなさい。

〔12〕 1 日本は自国の実情を考え取捨選択することなく、欧米の科学技術

術をそのまま受け入れてしまったから

2 日本は欧米と協力して世界の科学技術の進歩に貢献したが、文

化の多様性は認めていないから

3 日本は科学の発展がもたらす負の部分に目を向けず、ひたすら

技術革新のみを追いつめていたから

4 日本は科学の限界に気付かず、人間の心の荒廃に目を向けよう

としていないから

問四 傍線部 (ウ) の説明として、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

4の中から一つ選びなさい。

〔13〕 1 現代の欧米の自然科学技術が進歩していく様子を別の世界から

楽観的に眺めている。

2 現代の自然科学技術が疑問を持たれることなく進歩の道を突き進む危険性を察知している。

3 欧米の人々にも想像できずにいる自然科学技術の進歩の未来を特殊な能力で予見している。

4 自然科学技術の進歩の未来について科学者のように客観的に見守り続けている。

問五 傍線部 (エ) のように評価する理由として、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

〔14〕 1 魔法の使い方が上手になっても自らの持つ能力に無関心であり続けたから

2 魔法の使い方が上手になっても恩師への感謝と礼儀を忘れていないから

3 魔法の使い方が上手になっても自分が未熟であることを忘れずにいるから

4 魔法の使い方が上手になっても故郷を離れた自己の愚かさを自覚していたから

問六 傍線部 (オ) の説明として、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

4の中から一つ選びなさい。

〔15〕 1 元通りにできないように宇宙を変えてしまう力を持っているのが、人間だということ

2 宇宙の均衡を破ることによって生じる混乱の責任を、人間は全生命に対して負わなければならないということ

3 宇宙の均衡を破ることによって生じる宇宙の損傷は、人間が責任を持って修復しなければならぬということ

4 元通りにならない宇宙の均衡の破れを、唯一修復できるのが人間だということ

問七 傍線部 (カ) の説明として、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

4の中から一つ選びなさい。

〔16〕 1 各々の土地に住む人々の法は、時を経て変貌することなく受け継がれていくという予感

2 地域性を考慮しない主張の強要でも、それぞれの地域の人々に

熱意は通ずるという予感

- 3 人々の生きている地域性を考えずに、自己の主張を普遍化しようとしても成功しないという予感

- 4 他所で成功しているので失敗することはない、という自負心が傷つけられる予感

三 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

先帝の御時に、承香殿の御息所の御曹司に、中納言の君といふ人さぶらひけり。それを、故兵部卿の宮、わか男にて、一の宮と聞えて、色好みたまひけるころ、承香殿はいとちかきほどになむありける。らうあり、^(イ)をかしき人々ありと、^(ウ)聞きたまうて、ものなどのたまひかしけり。さりけるころほひ、この中納言の君に、しのびて寝たまひそめてけり。ときどきおはしましてのち、この宮、をさをさとひたまはざりけり。さるころ、女のもとよりよみて奉りける。

人をとくあきた川てふ津の国^(エ)のなにはたがはぬ^(イ)君にぞありけるかくて物も食はで、泣く泣く病になりて恋ひたてまつりける。かの承香殿の前の松に雪の降りかかりけるを折りて、かくなむ聞えたてまつりける。

来ぬ人をまつ^(b)の葉^(c)にふる白雪の消えこそかへれあはぬ^(d)思ひにとてなむ、「A この雪おとすな」と、使にいひてなむ、奉りける。

(『大和物語』)

問一 傍線部(ア)の文法的説明として、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 【17】 1 尊敬語・補助動詞
2 尊敬語・本動詞

3 謙譲語・補助動詞

4 謙譲語・本動詞

問二 傍線部(イ)の意味として、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 【18】 1 素晴らしい人々
2 珍しい人々
3 面白い人々
4 高貴な人々

問三 傍線部(ウ)の主語として、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 【19】 1 先帝
2 承香殿の御息所
3 中納言の君
4 一の宮

問四 二重傍線部(a)・(b)・(c)・(d)のうち、掛詞が示す意味として適切でないものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 【20】 1 (a) 名には・難波
2 (b) 松・抹
3 (c) 降る・経る
4 (d) 日・火

問五 傍線部(エ)と同一の意味で使われているものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 【21】 1 花にあかぬ嘆きはいつもせしかども今日の今宵に似る時はなし
2 などてかくあふごかたみになりにつむ水もらさじとむすびしものを
3 草枕ちりはらひにはからころもたとゆたかに裁つを待てかし
4 冬ながら空より花の散りくるは雲のあなたは春にやあるらむ

問六 空欄Aに入る語として、文脈上最も適切なものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 【22】 1 いかでか